

今後1週間程度は、高温少照の見込みです！
茎数を確認し、目標とする穂数の8～9割を
確保している圃場は、直ちに中干し・作溝を！
未確保の圃場は、水交換・浅水管理で分けつ促進を！

◎気象・生育概況

- 1 県内は、平年より3日遅く、昨年より4日早く6月15日に梅雨入りとなりました。
 また、1カ月予報によると、平年に比べ曇りや雨が多くなる見込みで、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

東北地方1カ月予報(6/18~7/17) 【仙台管区气象台6/16発表】
 気温：平年より**高い**見込み 降水量：平年**並みか多い**見込み
 日照時間：平年**並みか少ない**見込み

- 2 作柄診断圃の生育は、平年に比べ草丈は短く、茎数はやや少なく、葉数はやや少なく、葉色はやや淡くなっていますが、6月上旬の低温少照の影響から回復しつつあります。
 ただし、移植時期の遅かった圃場、老化苗を移植した圃場、移植後水交換がなく降雨で深水管理となった圃場では、茎数が目標に達していません。
 浅水管理(ワキが発生していれば水交換のあと)を徹底し、茎数の確保に努めましょう。

表1 生育診断圃の生育(6月17日調査、庄内普及課作況圃)

	項目	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(葉)	葉色(SPAD)
はえぬき (矢馳)	本年値	29.9	447	7.5	35.3
	平年値	32.0	468	7.9	36.7
	平年比・差	93	96	-0.4	-1.4
つや姫 (上清水)	本年値	31.6	412	7.3	37.0
	平年値	33.2	390	7.8	39.1
	平年比・差	95	106	-0.5	-2.1
雪若丸 (長沼)	本年値	24.7	416	7.3	42.5
	指標	31.6	448	8.0	43.1
	指標比・差	78	93	-0.7	-0.6

※平年値:過去5年平年値

◎ 目標の茎数(穂数の8~9割)を確保したら、遅れずに中干し・作溝を開始

1 中干しの効果

- ・中干しには以下の効果があります。より良い収穫の秋を迎えるか否かは、中干しがポイントです。
 - ①酸素の供給 → 有害物質の除去 → 根の活力向上 → 登熟向上(食味・品質・収量の向上)
 - ②土壌中窒素の発現を一時的に抑制 → 無効分げつを抑制 → ぐず米の減少(品質・収量向上)
 - ③土壌水分の低下 → 地耐力の向上 → 作業性の向上

○作溝は、中干しの効果を高める重要な技術で、中干し終了後の灌排水を容易にします。

2 中干し開始の目安

- ・目標とする穂数の8~9割の茎数を確保した時期が中干し開始時期です。
- ・品種や栽植密度により、目標茎数が異なるので、下表(表2)を参考に時期を判断します。

表2 主な品種の中干し開始の目安

品 種	指標の穂数 (本/m ²)	指標穂数の8~9割		
		(本/m ²)	70株植/坪 (本/株)	60株植/坪 (本/株)
つや姫	440	350 ~ 400	17 ~ 19	19 ~ 22
雪若丸	580	460 ~ 520	22 ~ 25	25 ~ 29
はえぬき	540	430 ~ 490	20 ~ 23	24 ~ 27
ひとめぼれ	500	400 ~ 450	19 ~ 21	22 ~ 25

3 中干しの程度の目安

- ・地力(土質)や生育量に合わせて、中干しの程度・期間を調節します。

表3 中干し程度の目安

地力：低~並 生育量：並~良	7~10日間を目安に小ヒビ(写真左)が入る程度
地力：高 生育量：過多	有効茎確保前でも早めに実施。11~15日間を目安にやや強め(写真右)の中干し



◎ 【 雪若丸 情報】 生育が不足している場合の対応

~ 6月20日現在で茎数300本/m²以下(70株/坪で14本/株)葉色40以下の場合 ~

- 水交換を行って根が養分吸収できるよう根圏環境を改善した後、窒素成分で1kg/10a程度を補完施用します。その後、浅水管理で分げつを促進し、6月中に有効茎を確保します。

熱中症予防と農作業事故防止のため、定期的に水分と休憩を取りましょう